古写真や絵画で見る

仙台歴史散策

藩校 養賢堂

仙台市博物館 学芸員 佐々木 徹

第12回

養賢堂のなりたち

元文元年（一七三六）、藩士の子弟の学問の場として北三番丁（木町通小学校あたり）に学問所（学文所）が設立され、儒学を中心とした教育が行われました。これが仙台藩の藩校のはじまりです。五代藩主伊達吉村の時代に当たります。

しかし、小規模で通学の不便さもあって不振となり、学問所の発展を考えた七代藩主重村は、宝暦一〇年（一七六〇）に城下の中心部である勾当台（現在の宮城県庁あたり）に学問所を移転させ、明和八年（一七七一）には「養賢堂」と名付けました。ここでは儒学を中心とした学問だけでなく、弓術・馬術などの武術も学べました。

文化七年（一八一〇）、正式に第五代学頭（校長）となった大槻平泉は、敷地を広げて施設の整備・拡充を図りました。文化一四年には表門や中心施設の講堂が完成し、以後、学頭居宅や学寮、馬場、教科書の印刷所、火の見櫓、孔子廟などが順次建設されていきました。さらに養賢堂の教科には、習字や算術、兵学、槍術、剣術、蘭学が増設され、幕末にはロシア学も講じられました。

文明開化の風

明治時代になると、養賢堂の建物は宮城県庁舎として利用されることになりました。この時のすがたを写し取った油絵があります。明治一四年（一八八一）に高橋由一が描いた「宮城県庁門前図」（宮城県美術館蔵）です。

高橋由一は、日本の油彩画の先駆者ともされる洋画家として知られ、この絵は由一が宮城県の依頼によって描いたものでした。写実性を重視した由一の本領が発揮された作品ともいわれています。

画面左側にみえる建物が、かつての講堂や学頭居宅などです。画面右側にあるのは表門ですが、かつての門は撤去され、白いペンキで塗られた洋風の門が設置されています。また画面中央には、公用車である黒塗りの馬車が、洋服をまとい、帽子をかぶる御者とともに描かれています。

文明開化の風が吹き始めた仙台の様子が活写されています。

宮城県庁門前図　高橋由一筆　明治14年（1881）
宮城県指定有形文化財　宮城県美術館蔵

昭和初期の養賢堂の講堂（古写真）　仙台市博物館蔵

養賢堂の焼失

仙台藩の藩校から宮城県庁舎となった養賢堂の建物は、昭和二〇年（一九四五）七月の仙台空襲によって焼失しました。

しかし、明治時代になって撤去された江戸時代の表門は、泰心院（若林区南鍛冶町）の山門として移築されていたため、養賢堂の唯一の遺構として現存しています。それ以外にも、戦前に撮影された貴重な古写真から、往時の建物の様子をうかがい知ることができます。

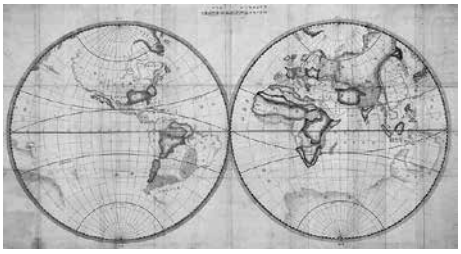
在りし日の養賢堂のすがたは、残念ながら戦災によって大部分が失われてしまいました。現在は説明板によって、かつてここに養賢堂があったことやその歴史が略述されるのみですが、私たちはこうした古い資料などから、その面影を感じ取ることができます。

旬の常設展2019秋冬

「常設展は絵図がいっぱい!」

12月27日(金)まで開催中!

12月1日(日)まで開催していた企画展「やっぱり絵図がすき！」に関連し、常設展においても館蔵資料の中から城下絵図、村絵図、要害絵図をはじめとする数多くの絵図を展示しています。バラエティ豊かな絵図の世界をお楽しみください。



世界之図　林子平書写 安永4年（1775）仙台市博物館蔵

《休館のお知らせ》

12月28日(土)
〜
2020年3月31日(火)

館内設備改修工事のため、上記期間は休館とさせていただきます。
ご不便をおかけしますが、ご了承くださいますようお願いいたします。
再開館日は2020年4月1日(水)を予定しています。

【観覧料】常設展料金：一般・大学生460円(360円)、高校生230円(180円)、小・中学生110円(90円)
※30名以上の団体は(　)内の料金。このほか各種割引があります。

仙台市博物館 SENDAI CITY MUSEUM　TEL:022-225-3074　▶12月の休館日　毎週月曜日、12月28日(土)〜2020年3月31日(火)
〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地〈仙台城三の丸跡〉▶ツイッター @sendai_shihaku　▶博物館HP　仙台市博物館　検索